

# 強度行動障害の理解④

## 障害特性の理解

# この時間で学びたいこと

- かかわる側の特性理解の不足による「環境面が整っていない状況」が強度行動障害のリスクを高める主な要因となることを忘れてはなりません。
- しかしながら、知的障害の程度が中度～最重度の群、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害（以下、自閉症と記す）の特性が強い群が強度行動障害の様相を呈しやすいという現状があります。したがって、（知的障害を合併する）自閉症の方々の特性を理解しておくことが重要になります。
- この時間では、（知的障害を合併する）自閉症の方々の特性について整理し、後半は日本自閉症協会が作成した「自閉症の子どもたち」（DVD）を視聴します。

# それぞれの地域で実施するときに

指導者の方へ

- 経験年数が短い受講者の場合、講義スタイルだけでは理解が深まりきれないことも想定されます。後半に映像視聴の場を設けることを考えてみましょう。
- 講義の中でも、可能な限り「あるあるエピソード」的な話を加えていけたらいいと思います。
- 自閉症の人を正しく理解するための参考となるDVDはいくつか販売されていますので、それらを活用するのもいいかと思います。たとえば…。

朝日新聞厚生文化事業団

「自閉症の人が見ている世界～自閉症の人を正しく理解する～」

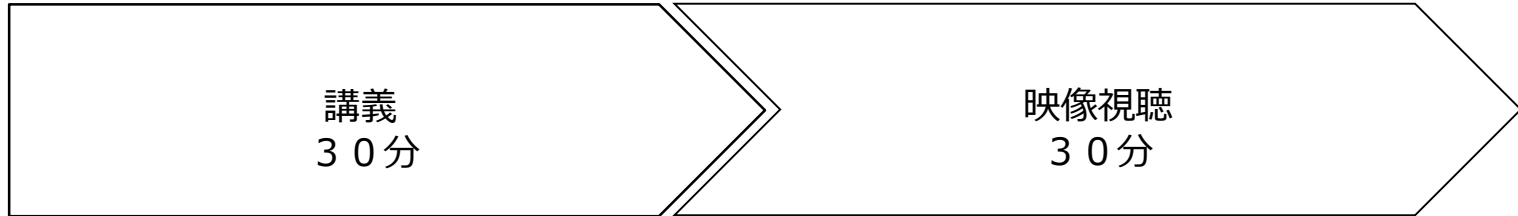
[http://www.asahi-welfare.or.jp/purchase/detail/jiheisho\\_miteiru.html](http://www.asahi-welfare.or.jp/purchase/detail/jiheisho_miteiru.html)

社団法人日本自閉症協会

「自閉症の子どもたち～バリアフリーを目指して」

<http://www.autism.jp/knowledge/media/dvd.html>

# この時間の流れ



- 前半は、自閉症の特性について整理します。
- 後半は、DVDを視聴し、講義内容の理解を深めます。

# なぜ自閉症の特性を学ぶのか①

自閉症の特性を学ぶことの重要性をいくつかの調査結果が示唆しているのです、それを示します。

## 調査結果①

- 自閉症児親の会全国協議会（現：一般社団法人日本自閉症協会）が行った最初の大規模調査において、15歳以上の自閉症児者249人のうち、

決まった所に一人で外出することができない20%

新しい場所に適応することができない15%

常に「異常行動」がある12%

という回答結果がある。

※淀野寿夫（1982）自閉症児者療育の縦断的研究．昭和57年度厚生省心身障害研究班報告書（班長 佐々木正美）「自閉症の本態、原因と治療法に関する研究」．163-182．

# なぜ自閉症の特性を学ぶのか②

## 調査結果②

- 行動障害児（者）研究会が1989年に行った全国の児童相談所ならびに更生相談所を対象とした調査では、強度行動障害のうち自閉症と診断されていたのは、それぞれ25%、18%であった。

※自閉症を中心とした心身障害児に対して行動障害児（者）研究会（1990）強度行動障害児（者）の行動改善および処遇のあり方に関する研究（Ⅱ）．財団法人キリン記念財団．

## 調査結果③

※行動障害児（者）研究会の調査（1989）による

施設種別	強度行動障害数	在籍数	割合
知的障害児入所施設	977	7,113	13.7%
知的障害者入所更生施設	1,577	20,066	7.9%
自閉症施設（1種・2種）	162	384	42.2%
重心施設（国療重心委託含む）	663	8,452	7.8%
合計	3,379	36,015	9.4%

# アセスメントとしての特性理解

- アセスメントには、フォーマルなもの（やり方が決まっている、いわゆる検査と呼ばれるもの）と、インフォーマルなもの（日常の観察や聞き取りなどをしながら、自分たちで作成したチェックリストをつけたりシートに記入したりするもの）があります。
- この講義では、自閉症の特性を整理するとともに、インフォーマルなアセスメントとしての特性確認シートを紹介します。

# 参考：フォーマルなアセスメントの例

- 本人のことを知る上で、フォーマルなアセスメントは当然のことながら有益な情報になります。ここでは、その名前を目にすることがあるかもしれないいくつかの検査についてあげておきます（もちろん、これ以外にもたくさん検査があります）。
- 認知や発達の状況を知る  
WAIS-Ⅲ WISC-Ⅳ ビネー式知能検査  
K-ABC2 新版K式発達検査 PEP-3 TTAP 等
- 生活や適応の状況を知る  
Vineland-Ⅱ 適応行動尺度 S-M社会生活能力検査  
ASA旭出式社会適応スキル検査 等
- その他の情報を知る  
感覚プロフィール 等



# 自閉症の特性を整理する

講義

30分

映像視聴

30分

このテキストでは、自閉症の特性を次のように整理しています。

## 診断に関する主要な特性

- 社会性の特性
- コミュニケーションの特性
- 想像力の特性
- 感覚の特性

## その他の重要な特性

- 認知・記憶の特性
- 注意・集中の特性
- 運動・姿勢の特性

# 自閉症について

- D S M - 5 では、自閉スペクトラム症もしくは自閉症スペクトラム障害と呼びます。いろいろなタイプがいて、境目のない連続体として広がっているという考え方です。
- 社会性やコミュニケーションの困難、想像力（目の前にないことをイメージすること）の困難が診断基準となり、感覚の特異性も診断の際に考慮されます。
- これらの診断に関する主要な特性以外にも、配慮すべき重要な特性があり、ここでは、7つの視点から特性を整理してみます（配慮すべきことを中心に整理します）。

# 参考：DSMとICDについて

## DSMについて

- アメリカ精神医学会(American Psychiatric Association)が作っている、心の病気に関する診断基準です。Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disordersの頭文字をとった略称です。世界的に広く用いられており、2014年5月に、DSM-5が日本精神神経学会より公表され、日本の医療現場の診断においても多く用いられています。

## ICDについて

- 疾病及び関連保健問題の国際統計分類です。WHO（世界保健機関）が作成する、死因・疾病に関する統計と分類です。日本では、行政上の統計や分類に活用されることが多くなっています。現在、ICD-11が発表されていますが、日本語訳はまだ出されていないため、日本ではICD-10が現時点では最新版となります。

# 参考：知的障害について

軽度	IQ 50-69
成人期においてその精神年齢は概ね9歳から12歳相当。	
中度	IQ35-49
成人期においてその精神年齢は概ね6歳から9歳相当。	
重度	IQ20-34
成人期においてその精神年齢は概ね3歳から6歳相当。	
最重度	IQ 20未満
成人期においてその精神年齢は概ね3歳未満。	

※軽度、中度、重度、最重度の区分はICD-10による

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/sippe/dl/naiyou05.pdf>

# 参考：精神障害について

- 統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害、精神病質その他の精神疾患を有する者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第五条）
- 精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者（障害者基本法第二条）
- 幻聴、妄想、体感幻覚、感情の平板化、意欲低下、ひきこもりなどの具体症状が現れる。

# なぜ、特性を整理するのか①

- 特性は、「強み」と「弱み」と言い換えることもできるでしょう。「強み」は支援に生かすものであり、「弱み」は支援者が歩み寄るところと言えます。それゆえ、特性の把握においては、「強み」と「弱み」の両面を整理しておくことが重要です。
- 自閉症の方々は少数派です。特にその学習スタイルは、多数派とは大きく異なります。どのような学習スタイルを持っているのかは、特性を把握し整理することで見えてきます。

# なぜ、特性を整理するのか②

- 自閉症の人たちの学習スタイルに合わせた支援を展開することで、自閉症の人たちは適切に学ぶことができ、強度行動障害という状況に陥ることなく、よりよい生活を送ることができます。ですから、私たちは、自閉症の人たちの特性を常に学び、支援の基盤に置く必要があるのです。
- 配慮点を押さえ、「強み」を整理することがポイントになります。

# 視点① 社会性の特性

- 対人関係をもつことや維持することの困難性  
関心の乏しさ 関心の激しさ 一方通行
- 集団の中でのふるまいに関する困難性  
人ごみの苦手さや集団の中での立ち位置  
集団の意思の把握
- 年齢相応の常識をとらえることの困難  
空気 危険 善悪・・・  
教えられなくても自然に身に付く社会の了解事項

☆ 自分がすべきことが明確であれば、  
集団への適応が増す



## 視点② コミュニケーションの特性

- 発信と理解のアンバランスさ
- 場面や状況によるアンバランスさ
- 非言語コミュニケーションの苦手さ  
(表情や視線など)
- 話の全体ニュアンスを理解することの苦手さ
- 言外の意味を把握することの苦手さ

☆話し言葉だけではない、たとえば  
目に見えるツールを活用することで、  
伝達度が増す

## 視点③ 想像力の特徴

- 想像力とは「目の前に存在しないものを取り扱うこと」
- 漠然とした見通し、予定変更、新規場面の苦手さ
- 結果として、決めごとや興味・関心の偏り  
(けれど、それがとても好きなことにもなる)
- 段取りを適切に組む、優先順位をつける苦手さ
- なんとなく、だいたいの苦手さ

☆ 目の前に存在する視覚情報があると

わかりやすさが増す

☆ 自分が興味・関心のある対象への

思いが強みになることも多い

## 視点④ 感覚の特性

「過敏性と鈍麻・時には過敏、時には鈍磨」

- 聴覚刺激に対する反応
- 視覚刺激に対する反応
- 触覚刺激（皮膚、温度など）に対する反応
- 臭覚刺激に対する反応
- 味覚刺激に対する反応
- その他の刺激に対する反応
  - 前庭覚刺激（揺れなど）に対する反応など

☆感覚に関する反応が、心身の状況や調子のバロメーターとなることも多い

# 視点⑤ 認知・記憶の特性

- 複数の情報を同時に処理することの苦手さ
- その人独自の理解のしかた
- 学習に関する不均衡（文字・数・マッチング等）
- 長期記憶やワーキングメモリー（今やっていることの記憶）などの強さと弱さのアンバランスさ
- フラッシュバック（消えない記憶）
- ものごとの関係性をとらえたり、時系列などを整理したりすることの苦手さ

☆ひとつずつの情報や課題を処理することは得意

☆視覚的な情報処理に強みを持っていたり、  
視覚的に際立った記憶力を有していたり  
することがある

# 視点⑥ 注意・集中の特性

- 他者と感じ方を共有したり共感したりすることの苦手さ
- 注意を持続することの偏り
- 注意を向ける範囲の偏り
  - 狭く深い
  - 注意を別な方向にむけることの困難
- 視野自体の狭さ、見る方向性の独特さ

☆人とは異なる着眼点を持っている

☆見るべきところや終わりが

明確に示されたら注意を向けやすくなる

# 視点⑦ 運動・姿勢の特性

- 手指機能の不器用さを示す人も
- 身体の使い方のアンバランスさがある人も
- 姿勢の維持が難しい人も
- 発汗がうまくいかず体温調整が難しい人も

☆ 工芸等の制作活動に長けている人もいる

☆ 水泳やスキー、ランニングなど、同じ方向に進む運動種目に強みを発揮する人もいる

# 具体的な行動から特性を整理する

- それぞれの特性が重なり合って行動として現れることが多いので、具体的な行動からその背景にある要因として考えられることを整理していくほうがわかりやすいのではないかと思います。
- そのための特性確認シートを紹介します。

診断の基準に關係する項目		【1】診断の基準に關係する行動の特性		【2】その行動の背景にある要因として考えられること (認知・記憶／注意・集中／運動・姿勢などの特性も含む)		【3】支援のアイデア	
		現れている行動の例	<input checked="" type="checkbox"/>	具体的な行動	<input checked="" type="checkbox"/>		
社会性の特性	人や集団との関係に難しさがある	人とかかわりが一方的である 相手の気持ちに關係なく行動する 一人でいることを好む 同世代の人と上手に付き合うことができない 人が多いところが苦手である 複数の人と同時に活動することが難しい 周囲の様子から期待されていることを理解することが苦手である 他者に求められていることと自分に求められていることの区別が難しい	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	見えないものの理解が難しい 曖昧なものの理解が苦手である 視線や雰囲気から読みとるのは苦手である 表情や声質など全体的な理解が苦手である 文字や数等、示された情報を理解することができない 情報の多いものやその処理が苦手である どこを見たらいいか、どこで活動したらいいかわからない 今あるいはさっきしていたことを忘れてしまう 一緒に同じものを見て気持ちを通わせることが難しい／共感が少ない 気になることから抜けられない ものごとの関連性がわからない 刺激に影響されやすい 運動や手先の使い方が不得手で活動をこなせない 姿勢や動きがぎこちないためにやる気がないように見える 時間の流れを頭の中で中目立てられない 終わりが理解しにくい 手順が思いつかない ひとつの活動に集中しきれない その他	生かせる強みがある(★欄から) 自分と周囲との関係や感情などを見る形で伝える 自分の心と体を休められる場所を用意する 「いつ」「どこで」「何を」の情報を覚えてわかるように伝える 着目すべき場所を強調する 一つの場所を多目的に使わないようにする 「どうやって」「どうなったら終わり」「次に何を」をわかるように工夫する 困ったときに誰にどう伝えたらよいかを具体的に伝える 環境を整え、刺激を少なくする 活動の量やジグなどの工夫をする 椅子や材料などの配置を工夫する その他
	状況の理解が難しい	年齢相応の常識(社会的なルール)が身につけていない その場にふさわしい(安全・迷惑等に配慮した)行動がとれない 周囲にどのように見られているかわからない 周囲のことに興味を示さない 活動への参加が難しい 自分勝手な行動をしているように見える 待つのが苦手である 自由時間を上手に使うことができない 危険と思われる行動をしてしまう	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(★欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出せる工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の方法を工夫する 会話の場の人数などにも配慮する その他
コミュニケーションの特性	理解が難しい	言語で指示をしてもすぐに行動ができない／指示されたことと違うことをする 決まりきった場面での言葉はわかるが状況が変わるとわからないことがある 相手の話の全体ニュアンスを理解することが難しい 相手の表情や視線、気持ちを読むことが苦手である／特定の表情や雰囲気だけに過剰に反応する 短い言葉でないとわからない(短い言葉ならわかることもある) 相手の言葉をそのまま繰り返すことがある(反響言語・エコーリア) 言葉の意味を勘違いすることがよくある(見て理解が得意) 抽象的や曖昧な(ちよつと、ゆっくり、なんとなく、だいたいなど)表現の理解が難しい 冗談や駄洒落、慣用句などが理解できない／字義通りの理解(言外の意味を把握できない)	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(★欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出せる工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の方法を工夫する 会話の場の人数などにも配慮する その他
	発信が難しい	行動(かんしゃく・パニック・身体表現・クレームなど)で気持ちを伝える コマースやアニメの台詞は言えても伝える手段で言葉を使えない 自分しかわからない言い方で伝えることがある(帰りにくなど「りんご」と言うなど) 言葉の特定の機能しか使えない(要求のみ・あいさつのみ) 返事が相手の言葉の繰り返しになりやすい(反響言語) この場所ではこの台詞、この人とはこの台詞とお決まりの台詞が多い 文法が使えない(単語・二語文)／使えても助詞(がのにを)を間違える	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(★欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出せる工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の方法を工夫する 会話の場の人数などにも配慮する その他
	やり取りが難しい	視線が合わない／アイコンタクトが取れない やりとりができない／かみあわない やりとりが続かない 唐突に話し出す／自分が知ることは相手も知っている前提で話をしてしまう 理解と発信の状態像のアンバランスさが大きい	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	見えないものの理解が難しい ものごとの関連性がわからない 情報の多いものやその処理が苦手である 細部に着目してしまう 刺激に影響されやすい 聴覚に過敏がある(音・声など) 理解するのに時間がかかる 言葉の記憶の保持が難しい 音言語ではうまく伝えられない 誰に伝えたらいいかわからない どうやって伝えたらいいかわからない やりとりをすること自体の意味がわからない 興味関心が強く狭い 相手の気持ちや状況の理解が難しい 言葉を処理する速度が他者と異なる その他	生かせる強みがある(★欄から) 本人が使いやすいツール(文章、単語、絵、写真、シンボル、具体物等)を提供する 伝える量に配慮する 伝える速さを調整する 理解できるまで待つ 環境を整え、刺激を少なくする だれに、どうやって伝えるか具体的に示す 忘れたときに思い出せる工夫を用意する 会話も見えるツールで支援する 本人の処理速度に合わせて会話の方法を工夫する 会話の場の人数などにも配慮する その他
想像力の特性	変化への対応困難	自分のルールを変えられることに抵抗がある／必要があっても変更できない 日課が変わる、担当者が変わる、場所が変わるなどの変更弱い 活動の途中で止められると対応できない 新規場面(初めてのことが)が苦手である 段取りを組んだり、優先順位をつけたりすることが苦手である	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強く狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目に入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(★欄から) 最初から正しい方法で学べる準備をする 予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する やり方を忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の使い方を統一する 順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に意味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする その他
	物の一部に対する強い興味	標識、ロゴ、数字、テレビCM、電車、DVDの繰り返し再生などの一部分に執着する 必要があっても、自分の興味のないものに関心を示すことができない 細かいことが気になってひっかかる 声をかけても聞こえていないようにふるまうことがある	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強く狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目に入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(★欄から) 最初から正しい方法で学べる準備をする 予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する やり方を忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の使い方を統一する 順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に意味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする その他
	常同・反復的な行動	同じ場所に置きたい、同じ角度にしたいなどのこだわりがある 同じ行動や活動、同じ言葉を何度も繰り返す／長時間続ける 手順、日課、道順など、自分なりのルールが多くなる	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	自分の(ひとつの)やり方から抜け出すことが難しい 変更があることの理解が難しい 興味関心が強く狭い 集中しすぎると注意の移動が難しい その都度判断するのが苦手である 部分的な処理が強く全体の理解が苦手である 少しの違いで大きな不安が生じる 目に入った記憶に強く影響される 手がかりが変わるとわからなくなる やり方を覚えられず、自分のルールに戻ってしまう フラッシュバックと思われる混乱がある その他	生かせる強みがある(★欄から) 最初から正しい方法で学べる準備をする 予告を視覚的に行い、成功につながる手がかりを提供する やり方を忘れても確認できるように、手がかりが見えるようにする 変更の使い方を統一する 順番の提示なのか活動の選択なのかを明確にする 環境を整え、刺激を少なくする 本人の興味関心に合わせた提示(ごほうびの活用)を行う ごほうび等を活用して活動に意味をもたせる 変わらないものは習慣化できるようにする その他
感覚の特性	感覚が敏感・鈍感	聴覚/耳を塞ぐ、特定の音を嫌がる、怖がる、特定の音を大音量にしたがするなど 視覚/眩しがる、目を閉じる、帽子やフードを自深にかぶる、キラキラに没頭するなど 触覚/同じ素材の服しか着たがらない、爪切り、歯磨き、洗髪、散髪などで激しく抵抗するなど 臭覚/刺激臭を好む、特定の臭いを極端に嫌うなど 味覚/著しい偏食、特定の刺激の強い味を好む、同じものばかり食べるなど その他/目が回らない、ロッキングが多い、高い場所が好きなど その他/体温調整や気圧の変化への対応の苦手さがあるなど その他/力加減がうまくできないなど	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	感覚に過敏がある 感覚に鈍麻がある 感覚の入出力のコントロールが難しい 鈍麻を補うための自己刺激行動がある 疲労やストレスが感覚に影響を与えている その他	生かせる強みがある(★欄から) 必要な刺激は保証する 苦手な刺激を少なくするための配慮(イヤマフ・サングラスなど)をする 他刺激で代用するなど、強く危険な刺激や好き過ぎる刺激への配慮を講じる 避難場所の確保を行う その他
	☆得意なこと・強み・できること・好きなことなど		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		



# 冰山モデル

課題となっている行動  
**強度行動障害**

かんしゃく、奇声、他害、自傷、パニック  
不適切な行動、つよいこだわり・・・など

(本人の特性)

社会性

コミュニ  
ケーション

想像力

感覚

認知・記憶

注意・集中

運動・姿勢

(環境・状況)

強度行動障害は  
特性と環境のミス  
マッチから生じる

水面下の要因に着目する

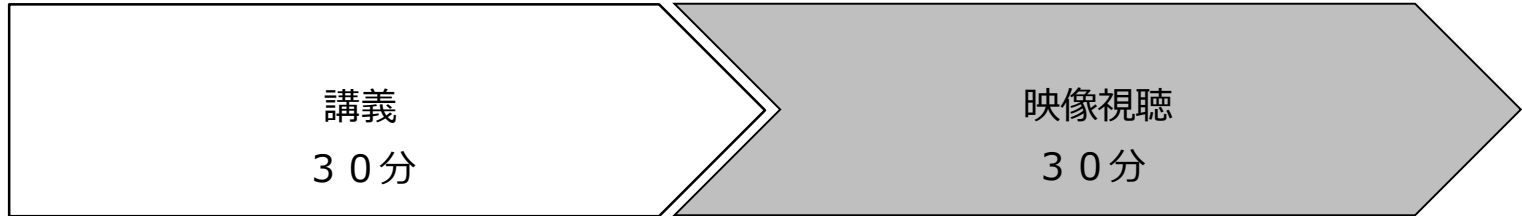
**必要なサポート**

本人の障害特性に  
合わせたサポート  
を考える

# 学びと肯定的理解の重要性

- 「理解に始まって理解に終わる」のが支援なので、わかったつもりにならないことが大切です。
- 基礎基本の学びをおろそかにせず、基礎基本にいつも立ち返ることはとても重要です。
- 苦手なことには配慮し、得意なことは生かすのが支援の基本ですから、繰り返しになりますが、得意なことを把握することは大切です（苦手とされていることも「ここまではできる」という見方もできるし、視点を変えれば強みになることもあるはずです）。

# D V D を視聴します



- 後半30分は、日本自閉症協会が作成した「自閉症の子どもたち」(DVD)を視聴し、講義内容の理解を深めます。